

## 幼稚園教諭・保育士養成における音楽教育の実践と評価 — 3年制短期大学における取り組み —

青井 則子<sup>1</sup>, 難波希久子<sup>2</sup>, 中川 智之<sup>1</sup>,  
入江 慶太<sup>1</sup>

### Practice and Evaluation of Music Education in the Training of Kindergarten Teachers and Nursery Nurses : Class in a Three-year Junior College

Noriko AOI<sup>1</sup>, Kikuko NANBA<sup>2</sup>, Tomoyuki NAKAGAWA<sup>1</sup>  
and Keita IRIE<sup>1</sup>

キーワード：音楽教育，ピアノ演奏，3年制短期大学

#### 概 要

本研究は、幼稚園教諭・保育士養成課程における音楽教育の特徴とその効果を明らかにし、修業期間において本当に音楽的な能力が向上しているのか、3年制短期大学のピアノ演奏力に着目してその教育成果を確認することを目的とした。

まず前者について、ピアノ演奏に関連する音楽教育の単位数においては、2年制および3年制短期大学と4年制大学との間に大差はなかったが、授業回数においては、4年制大学より2年制短期大学の方が多く、3年制短期大学は2年制短期大学と同様に、ピアノ演奏力の向上に重点を置いた教育課程であることが分かった。次に後者について、3年制A短期大学学生の入学時と卒業時のピアノレベルを調査した結果、統計的にピアノ演奏力が向上していることが明らかとなった。加えて、卒業時には、全体の29.6%の学生が幼稚園教諭や保育士として、新規の歌唱曲に出会っても対応することができるピアノレベルに達していることが分かった。

#### 1. 緒 言

本研究は、幼稚園教諭及び保育士を養成する施設における音楽教育について検討し、より高い音楽的な能力を身に付けた保育者の育成を目指すものである。

幼稚園教諭あるいは保育士養成は、一般に、2年制及び4年制の大学、短期大学、専門学校で行われており、幼稚園教諭と保育士の資格を取得できるが、3年制短期大学の形態をとる保育者養成校は全国的にも珍しい<sup>1,2)</sup>。本論で取り上げる3年制A短期大学(以下、「A短期大学」と略す。)は、通常の保育に加えて病児・発達障害児をその対象に含め、あらゆる子どもの

ための保育を実践できる人材の育成を教育理念としている。その理念の実現には医療の知識の修得が必須となるため、修業年限は3年間と通常の2年制短期大学よりも1年間長く設定されている。

保育士資格は修業年数に関係なく、例えば、2年制あるいは3年制の短期大学を修了しても、4年制の大学を修了しても同一資格である。これに対し幼稚園教諭免許状は、専修免許状、一種免許状、二種免許状に分かれており、その基礎資格についても、専修免許状は修士の学位を有すること、一種免許状は学士の学位を有すること、二種免許状は短期大学士の学位を有することと異なっている<sup>3)</sup>。すなわち、2年制あるいは3年制短期大学と4年制大学のどちらを修了するかによって、その修めている内容は異なり、取得できる幼稚園教諭の免許状も異なってくるのである。

他方、幼稚園・保育所で勤務する者に求められるものの1つに、音楽的な能力<sup>注1)</sup>を上げることができる。周知の通り、公立・私立の設置主体の別を問わず、就

(平成26年10月22日受理)

<sup>1</sup>川崎医療短期大学 医療保育科

<sup>2</sup>川崎医療短期大学 非常勤講師

<sup>1</sup>Department of Nursing Childcare, Kawasaki College of Allied Health Professions

<sup>2</sup>Part-time Teacher, Kawasaki College of Allied Health Professions

職試験において音楽に関する課題を課している地方自治体・幼稚園・保育所が多数存在する。この事実からも、幼稚園教諭及び保育士には音楽的な能力が求められていると言えよう。高い音楽的な能力を身に付けた保育者を社会に輩出するためには、幼稚園教諭及び保育士を養成する施設に、それぞれの修業年限や教育理念に応じた教育課程を設定し、効果的な音楽教育を施す体制を整える必要がある。また、設定された教育課程に基づき実践された音楽教育がどのような成果を示したのか、検証する必要性があると考えられる。

保育者養成課程における音楽教育の先行研究を概観すると、音楽教育に関連する科目の内容について検討したものがあり<sup>4,5)</sup>、これらは、幼稚園教育要領および保育所保育指針との関連性や具体的な授業内容に言及しているものの、先述の修業年限や教育理念に応じた具体的な教育課程の比較、検討を行っている研究はない。また、保育科学生の入学時までのピアノ経験やピアノの演奏レベルについて調査した研究<sup>6,7)</sup>はあるが、入学時と卒業時を同様の基準で測定・比較する研究はなされていない。加えて、先述の研究はいずれも2年ないしは4年の修業年限の保育者養成校を対象にしたものであり、3年制短期大学の教育課程や教育成果に関する検証は実施されていない。

そこで本論では、研究Ⅰとして、幼稚園教諭・保育士養成課程における音楽教育の特徴とその効果を明らかにし、今後の保育者養成課程における音楽教育について検討する際の基礎資料を作成する。具体的には、まず幼稚園教諭及び保育士の養成課程が存在する2年制及び3年制短期大学と4年制大学との教育課程の比較を通じて、それぞれの音楽教育の概観を示す。そして、研究Ⅱで、A短期大学を3年制短期大学の1つの例として取り上げ、修業年限において本当に音楽的な能力が向上しているのか、ピアノ演奏力に着目してその教育成果を確認する。

## 2. 研究Ⅰ：保育者養成における音楽教育の特徴

A短期大学は中国地方に位置し、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を取得することができる。A短期大学が位置する地域には、当該校の他に、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を取得することができる4年制大学が9校（国公立2校、私立7校）、幼稚園教諭二種免許状と保育士資格を取得することができる2年生短期大学が7校（国公立2校、私立5校）が設置されている。またこれら養成校は、それぞれの教育の独自

性を担保しつつ、保育実習のミニマムスタンダードを作成している<sup>8)</sup>。

本論では、地域性など他の要因からの影響をできる限り小さくするため、一定の地域に存在する短期大学及び大学を対象とすることが望ましいと考えられる。そこでA短期大学が位置する地域に存在する大学の中から、2年制短期大学を3校（国公立1校、私立2校）、4年制大学を3校（国公立1校、私立2校）抽出した。その際、同一法人が設置する2年制短期大学と4年制大学については、教育理念が共通していることが予想されるため、対象に含める際にはいずれか一方のみとなるよう配慮して、偏りを避けた。

本論で扱う音楽教育の内容として、幼稚園教諭免許状を取得するために必要な「教科に関する科目」に位置づけられているものと、保育士の資格を取得するために必要な「保育の表現技術」に位置づけられている科目の内容を主な分析対象とした。また、本論の後半では、修業期間における音楽的な能力の向上をピアノ演奏力に着目して分析するため、上記の科目に加えピアノ演奏力の向上に寄与すると考えられる「音楽理論」「ソルフェージュ」「合奏」を含む科目を分析の対象に含めた<sup>注2)</sup>。具体的には、それらの科目の多くは、幼稚園教諭免許状を取得するために必要な「教職に関する科目」の内「教育課程及び指導法に関する科目」に含まれる「保育内容」に位置づけられている科目、及び保育士の資格を取得するために必要な「保育の内容・方法に関する科目」に含まれるものであった。一部、教養教育において「音楽理論」に関する科目を設置している大学もあった。

それぞれの大学のホームページ上から、学則・シラバス等を確認し、上記の音楽教育に関する単位数、授業回数をまとめたものが表1・2である<sup>注3)</sup>。また、修業年限別に、それぞれの音楽教育の内容や開講時期、必修・選択の別等をまとめたものが、表3～5である。

ピアノ演奏に関連する単位数においては、音楽教育に力を入れているG大学を除いて、2年制短期大学と4年制大学との間に大差はなかった。しかし授業回数においては、4年制大学は2年制短期大学よりも少ない回数しか授業が開講されていなかった。これはピアノの授業回数の差ではなく、その他の「音楽理論」「ソルフェージュ」「合奏」を含む科目の授業回数の差であった。4年制大学よりも2年制短期大学の方が、ピアノ演奏力の向上を目指した教育課程の構成と言えよう。A短期大学は単位数は若干少ないものの、授業回

表1 保育者養成校におけるピアノ関連授業の単位数

		2年制			3年制	4年制		
		B短期大学	C短期大学	D短期大学	A短期大学	E大学	F大学	G大学
ピ ア ノ	必修	2	2	2	3	1	2	3
	選択	2	2	2	0	2	2	7
	ピアノ計	4	4	4	3	3	4	10
そ の 他	必修	2	1	3	2	4	2	1
	選択	2	2	1	0	0	0	5
	その他計	4	3	4	2	4	2	6
合計		8	7	8	5	7	6	16

表2 保育者養成校におけるピアノ関連授業の授業回数

	2年制			3年制	4年制		
	B短期大学	C短期大学	D短期大学	A短期大学	E大学	F大学	G大学
ピアノ授業回数	60	60	60	90	45	60	150
その他授業回数	60	45	60	30	30	30	90
合計	120	105	120	120	75	90	240

数においては、他の2年制短期大学とほぼ同様であった。これは、ピアノ演奏及び弾き歌いに関する科目が1単位で通年30回の授業が開講されていることによるものである。

音楽教育の内容に目を向けると、全ての大学においてピアノ演奏及び弾き歌いに関する科目が、教育課程に位置づけられていた。A短期大学においては、これらの科目を全て必修として位置づけ、個人レッスンによる授業を展開している。これに対し、他の2年制短期大学及び4年制大学においては、ピアノ演奏及び弾き歌いに関する科目には選択科目が含まれていた。これらのことから、A短期大学はピアノ演奏力の向上に重点を置いた教育課程と言えよう。

「音楽理論」「ソルフェージュ」に関する内容を教授している大学においては、教育課程の早い段階に位置づけている大学が多かった。これは、予想した通り、ピアノ演奏及び弾き歌いに関する科目への教育効果の波及を考慮したものと考えられる。

### 3. 研究Ⅱ：3年制短期大学における音楽教育の評価

#### 3.1 問題と目的

続いて、A短期大学における学生のピアノ演奏力に着目し、その教育成果を確認する。先行研究では、3

年生短期大学についての音楽教育の成果に関する検証はなされていないため、研究ⅡではA短期大学をモデルとし、その実態とこれからの音楽教育の示唆を得たい。

#### 3.2 方法

##### 3.2.1 調査対象者および調査時期

本研究の調査対象者は、A短期大学の保育者を養成する学科に2011年度入学した78名のうち、3年間の修業年限で卒業した71名（男性1名、女性70名）である。まず、入学した2011年の4月に行われた1回目の授業の際、その時点での学生のピアノレベルを調査した。そして、卒業年次に当たる2013年の12月に行われるピアノ卒業演奏会で学生が演奏する曲目から、学生のピアノレベルを再調査した。なお、ピアノレベル調査の際、学生には得られたデータが教育および研究以外の目的に使用されることがないこと、個人が特定されることはないことを説明し、了承を得た上で実施した。

##### 3.2.2 手続および分析方法

ピアノに関する授業はピアノ教本をもとに進められる。A短期大学では、全音楽譜出版社のピアノ教本「バイエル教則本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム」「ソナタアルバム」を使用している。これらのピアノ教本はそれぞれ難易度が異なり、学生のレッスンは入学時点でのピアノの力量に見合ったピアノ

表3 2年制短期大学における音楽教育の内容

学年進行	B.短期大学		C.短期大学		D.短期大学		
	ピアノ	その他	ピアノ	その他	ピアノ	その他	
1年	前期	<b>【B：ピアノ①】</b> (必修・1年通年30回・2単位) ◆授業内容：ピアノ ○個人レッスン ○簡易伴奏付けも行う ○テキスト：「Piano Lesson60」	<b>【B：その他①】</b> (必修・1年通年30回・2単位) ◆授業内容：声楽・音楽理論 ○発声法・ソルフエージュ・子どもの歌 ○テキスト：「明日へ歌う継ぐ日本の子どもの歌」「ことものうた12カ月」	<b>【C：ピアノ①】</b> (選択・1年前期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ ○レバベル別に分かれグループの中の個人レッスン ○テキスト：「ハノン」「バイエル」「ツェルニー」	<b>【C：その他①】</b> ＜教養教育＞ (選択・1年前期15回・1単位) ◆授業内容：音楽理論・声楽 ○ソルフエージュ ○テキスト：「声楽教本」「コーレユアブング」	<b>【D：ピアノ①】</b> (必修・1年通年30回・2単位) ◆授業内容：ピアノ・弾き歌い ○初心者：前期はクラシックレッスン、後期はレバベル別に分かれグループの中の個人レッスン ○中級者以上：5回目以降個人レッスン、6回目以降レバベル別に分かれグループの中の個人レッスン ○20曲のレパートリーを作る ○テキスト(通年)：「Piano Lesson60」「ことものうた200」「続ことものうた200」	<b>【D：その他①】</b> ＜保育内容＞ (必修・1年前期15回・1単位) ◆授業内容：音楽理論・声楽 ○リズム・ソルフエージュ・童謡 ○テキスト：「ことものうた200」「続ことものうた200」
	後期		<b>【C：ピアノ②】</b> (選択・1年後期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ・弾き歌い ○ピアノ①と同じ形態 ○テキスト：「バイエル」「ブルグミュラー」「ソナチネ」「保育ソング90」「ことものうた200」	<b>【C：その他②】</b> (必修・1年後期15回・1単位) ◆授業内容：声楽 ○発声法・ソルフエージュ ○弾き歌い課題曲の歌唱 ○テキスト：「声楽教本」「保育ソング90」	<b>【D：その他②】</b> (必修・1年後期15回・1単位) ◆授業内容：音楽理論 ○和声進行 ○童謡曲も歌う ○テキスト：「ことものうた200」「続ことものうた200」	<b>【D：その他③】</b> ＜保育内容＞ (選択・2年前期15回・1単位) ◆授業内容：合奏 ○打楽器を使って ○合奏指揮法 ○編曲 ○テキスト：「保護者のためのリズム遊び」	
2年	前期	<b>【B：ピアノ②】</b> (選択・2年通年30回・2単位) ◆授業内容：ピアノ・弾き歌い ○20曲以上のレパートリーを課す ○下記3コースより1コースを選択 (1)MLでの伴奏付け (2)電子オルガンの操作および演奏法の習得 (3)個人レッスンによる高次な内容をとり入れたピアノ演奏法 ○テキスト：「明日へ歌う継ぐ日本の子どもの歌」	<b>【B：その他②】</b> (選択・2年前期15回・1単位) ◆授業内容：声楽 ○子どもの歌・独唱曲・合唱 ○テキスト：「明日へ歌う継ぐ日本の子どもの歌」「ことものうた12カ月」	<b>【C：ピアノ③】</b> (必修・2年前期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ・弾き歌い ○ピアノ①と同じ形態 ○テキスト：「ブルグミュラー」「ソナチネ」「保育ソング」「ことものうた200」	<b>【C：その他③】</b> (選択・2年前期15回・1単位) ◆授業内容：声楽 ○発声法・ソルフエージュ ○弾き歌い課題曲の歌唱 ○テキスト：「声楽教本」「保育ソング90」「コーレユアブング」	<b>【D：ピアノ②】</b> (選択・2年通年30回・2単位) ◆授業内容：ピアノ・弾き歌い ○ピアノ①と同じ形態 ○弾き歌い中心 ○テキスト：「Piano Lesson60」「ことものうた200」「続ことものうた200」	<b>【D：その他④】</b> (必修・2年後期15回・1単位) ◆授業内容：声楽 ○ソルフエージュ・童謡曲 ○テキスト：「ことものうた200」「続ことものうた200」
	後期		<b>【C：ピアノ④】</b> (必修・2年後期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ・弾き歌い ○ピアノ①と同じ形態 ○テキスト：「ブルグミュラー」「ソナチネ」「保育ソング90」「ことものうた200」				

幼稚園教諭免許状を取得するための「教科に関する科目」及び保育士資格を取得するために必要な「保育の表現技術」に位置づけられている科目以外のものには、＜保育内容＞＜教養教育＞とその区別を示した。



表4 4年制大学における音楽教育の内容

学年進行	E 大 学			F 大 学			G 大 学		
	ピ ア ノ	そ の 他	ピ ア ノ	そ の 他	ピ ア ノ	そ の 他	ピ ア ノ	そ の 他	
1 年	前 期				【F：その他①】 (必修・1年前期15回・1単位) ◆授業内容：声楽 ○発声法・ソルフェージュ・子どものうた ○テキスト：「歌のカレンダール」「コールユープランゲン」	【G：ピアノ①】 (必修・1年前期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ ○個人レッスン ○テキスト：「教職課程のための大学ピアノ教本」	【G：その他①】 (選択・1年前期15回・1単位) ◆授業内容：音楽理論・声楽 ○新曲視唱 ○テキスト：「おんがくのしくみ」「心を育くむ子どものうた」		
	後 期		【E：その他①】 (必修・1年後期15回・1単位) ◆授業内容：声楽 ○発声法・ソルフェージュ・独唱・重唱・合唱・指揮法 ○記譜法・楽譜 ○テキスト：「声楽指導教本」	【F：ピアノ①】 (必修・1年後期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ・弾き歌い ○個人レッスン ○音楽理論・伴奏付け ○テキスト：「おんがくのしくみ」「バイエル」等		【G：ピアノ②】 (必修・1年後期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ ○個人レッスン ○テキスト：「教職課程のための大学ピアノ教本」	【G：その他②】 (選択・1年後期15回・1単位) ◆授業内容：音楽理論・声楽 ○新曲視唱 ○テキスト：「おんがくのしくみ」「心を育くむ子どものうた」		
2 年	前 期	【E：ピアノ①】 (必修・2年前期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ ○個人レッスン ○テキスト：「バイエル」「ブルゲミユラー」「ソナチネ」	【E：その他②】＜保育内容＞ (必修・2年前期15回・1単位) ◆授業内容：合奏 ○編曲・指導法 ○楽器遊びの教材研究 ○テキスト：「歌う」「弾く」「表現する保育者になろう」	【F：ピアノ②】 (必修・2年前期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ・弾き歌い ○個人レッスン ○音楽理論・伴奏付け ○テキスト：「おんがくのしくみ」「バイエル」「ブルゲミユラー」「ソナチネ」等		【G：ピアノ③】 (選択・2年前期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ 【G：ピアノ④】 (必修・2年前期15回・1単位) ◆授業内容：弾き歌い			
	後 期	【E：ピアノ②】 (選択・2年後期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ ○個人レッスン ○テキスト：「バイエル」「ブルゲミユラー」「ソナチネ」		【F：その他②】 (必修・2年後期15回・1単位) ◆授業内容：声楽 ○発声法・重唱・合唱 ○ミュージカル・オペレッタ		【G：ピアノ⑤】 (選択・2年後期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ 【F：ピアノ⑥】 (選択・2年後期15回・1単位) ◆授業内容：弾き歌い		【G：その他③】 (選択・3年前期15回・1単位) ◆授業内容：声楽	
3 年	前 期	【E：ピアノ③】 (選択・3年前期15回・1単位) ◆授業内容：弾き歌い ○グループ又は個人レッスン ○テキスト：「こどものうた200」「続こどものうた200」		【F：ピアノ③】 (選択・3年前期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ・弾き歌い ○個人レッスン ○音楽史の理解 ○テキスト：進度による		【G：ピアノ⑦】 (選択・3年前期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ		【G：その他④】 (選択・3年後期15回・1単位) ◆授業内容：声楽	
	後 期			【F：ピアノ④】 (選択・3年後期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ・弾き歌い ○個人レッスン ○連弾 ○テキスト：進度による		【G：ピアノ⑧】 (選択・3年後期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ		【G：その他⑤】 (選択・4年前期15回・1単位) ◆授業内容：声楽	
4 年	前 期					【G：ピアノ⑨】 (選択・4年前期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ		【G：その他⑥】 (選択・4年後期15回・1単位) ◆授業内容：声楽	
	後 期					【G：ピアノ⑩】 (選択・4年後期15回・1単位) ◆授業内容：ピアノ		【G：その他⑦】 (選択・4年後期15回・1単位) ◆授業内容：声楽	

幼稚園教諭免許状を取得するための「教科に関する科目」及び保育士資格を取得するために必要な「保育の表現技術」に位置づけられている科目以外のものには、＜保育内容＞＜教養教育＞とそとの区別を示した。

表5 3年制A短期大学における音楽教育の内容

		A 短期大学	
学年進行		ピアノ	その他
1年	前期	【A：ピアノ①】 (必修・1年通年30回・1単位) ◆授業内容：ピアノ ○個人レッスン ○テキスト：「ハノン」「バイエル」「ブルグミュラー」「ソナチネ」「ソナタ」各人の進度にそって選定	【A：その他①】 (必修・1年前期15回・1単位) ◆授業内容：音楽理論・声楽 ○発声法・子どもの歌・合唱 ○テキスト：「はじめての楽譜」「保育の四季 幼児の歌110曲集」
	後期		【A：その他②】〈保育内容〉 (必修・1年後期15回・1単位) ◆授業内容：合奏 ○保育教材への音楽付け・コード進行による伴奏付け ○テキスト：「コードを覚えてピアノを弾こう」「保育の四季 幼児の歌110曲集」
2年	前期	【A：ピアノ②】 (必修・2年通年30回・1単位) ◆授業内容：弾き歌い・ピアノ ○個人レッスン ○テキスト：「保育の四季 幼児の歌110曲集」「ハノン」「ブルグミュラー」「ソナチネ」「ソナタ」各人の進度にそって選定	
	後期		
3年	前期	【A：ピアノ③】 (必修・3年通年30回・1単位) ◆授業内容：ピアノ・弾き歌い ○個人レッスン ○テキスト：「ハノン」「ブルグミュラー」「ソナチネ」「ソナタ」「保育の四季 幼児の歌110曲集」各人の進度にそって選定	
	後期		

教本から開始される。本論では、ピアノに関する授業関係者2名(うち1名は筆頭著者、もう1名は共著者)の合議の下、ピアノ教本の難易度(以下、「ピアノレベル」とする)を10段階に分類した(表6)。

分析に伴うデータ入力および統計処理には、Microsoft社のExcel 2010を使用した。

### 3.3 結果

まず、全学生を対象に、入学時のピアノレベルの平均値( $M=3.42$ ,  $SD=2.33$ )と卒業時のピアノレベルの平均値( $M=6.28$ ,  $SD=2.10$ )を求めた。そして、それらの差が統計的に有意かどうか確かめるために、有意水準5%で両側検定の対応のあるt検定を行った

表6 ピアノレベル一覧

教本 <sup>※1</sup>	番号	難易度 <sup>※3</sup>
バイエルA	3～43番	1
バイエルB	44～79番	2
バイエルC	80～104番	3
ブルグミュラーA	1～13番	4
ブルグミュラーB	14～25番	5
ソナチネA	7・4・8・1・9番 <sup>※2</sup>	6
ソナチネB	10・6・5・17・12・11番 <sup>※2</sup>	7
ソナタA	1・2・3・6・12番 <sup>※2</sup>	8
ソナタB	7・8・9番 <sup>※2</sup>	9
他ソナタ・ロマン派作品		10

※1 教本名の横のアルファベットは、著者が独自に表記した。

※2 「ソナチネA」「ソナチネB」「ソナタA」「ソナタB」の番号は、授業で取り組む番号を難易度の低いものから表記している。

※3 数字が大きいほど、難易度も高い。

表7 入学時と卒業時のピアノレベルの平均値のt検定の結果

	平均値 (n=71)	標準偏差 (n=71)	t値
入学時	3.42	2.33	17.12*
卒業時	6.28	2.10	

\* $p<.01$

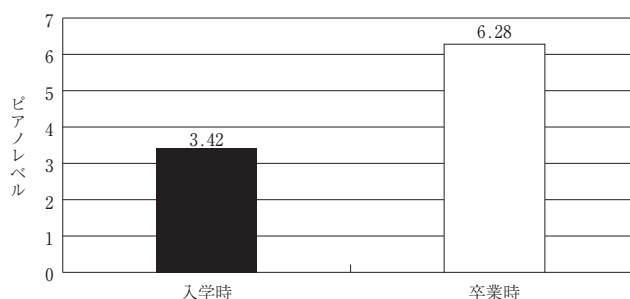


図1 入学時と卒業時のピアノレベルの平均値

ところ、入学時と卒業時のピアノレベルの平均値の差が有意 ( $t(70)=17.12, p<.01$ ) であることが分かった (表7, 図1参照)。次に、全体的な学生のピアノレベルの状況を把握するために、学生の入学時と卒業時のピアノレベルの度数をヒストグラムに示した (図2)。

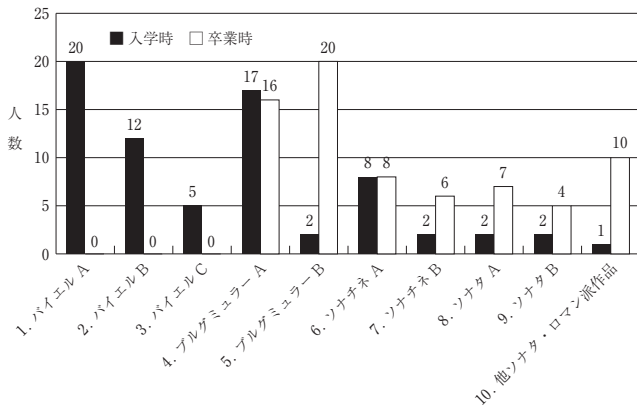


図2 入学時と卒業時のピアノレベルのヒストグラム

入学時には学生全体の約半数 (52.1%) がピアノレベル1～3の段階であったが、卒業時にそのピアノレベルの学生は一人もおらず、全員がピアノレベル4以上に位置していることが明らかとなった。卒業時のピアノレベルを概観すると、ピアノレベル4～5に位置する学生 (全体の50.7%) とピアノレベル6以上の学生 (全体の49.3%) の2群に分布していた。

図2を詳細に分析するために、入学時のピアノレベルのヒストグラムの人数分布から3群に分け、それぞれ初心者群37名 (レベル1～3)、初級者群17名 (レベル4)、中級者以上群17名 (レベル5～10) とした。各群で入学時のピアノレベルの平均値と卒業時のピアノレベルの平均値を比較するため、有意水準5%で両側検定の対応のあるt検定を行った結果、初心者群 ( $t(36)=17.42, p<.01$ )、初級者群 ( $t(16)=6.61, p<.01$ )、中級者以上群 ( $t(16)=6.54, p<.01$ ) で、いずれの群も入学時よりも卒業時のピアノレベルが有意に高く、初心者群の伸び率が最も高かった (表8, 図3)。一方で、初心者群 ( $M=1.59, SD=0.72$ ) の入学時および中級者以上群 ( $M=8.88, SD=1.32$ ) の卒業時のピアノレベルでは、床効果と天井効果が見られた。

表8 各群における入学時と卒業時のピアノレベルの平均値のt検定の結果

	平均値		標準偏差		t値
	入学時	卒業時	入学時	卒業時	
初心者群 (n=37)	1.59	4.89	0.72	1.13	17.42*
初級者群 (n=17)	4.00	6.71	0	1.69	6.61*
中級者以上群 (n=17)	6.82	8.88	1.47	1.32	6.54*

\* $p<.01$

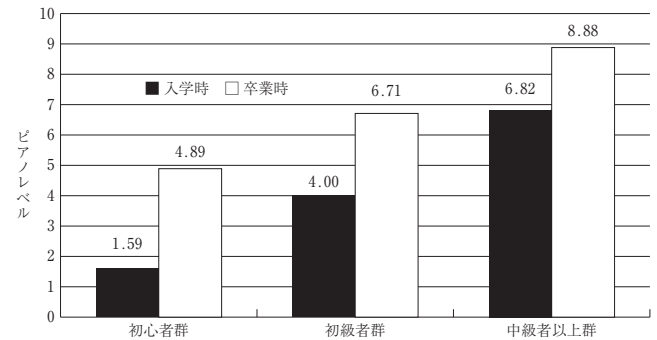


図3 各群における入学時と卒業時のピアノレベルの平均値

### 3.4 考察

研究IIの目的は、A短期大学をモデルとした3年生短期大学の音楽教育の教育成果を確認し、その実態と今後の音楽教育の示唆を得ることであった。まず、図2のヒストグラムから分かる通り、入学時にはピアノレベル1～3の学生が約半数を占めていたが、卒業時には全員ピアノレベル4以上に向上していたことは、A短期大学の音楽教育の成果の1つであると言える。また、全学生を対象とした分析では、入学時のピアノレベルよりも卒業時のピアノレベルの方が統計的に高いことが明らかとなった他、初心者群、初級者群、中級者以上群の各群においても、入学時のピアノレベルより卒業時のピアノレベルが高く、3年間の音楽教育によるピアノレベルの向上が証明された。一方で、初心者群の入学時と中級者以上群の卒業時のピアノレベルの床効果および天井効果は、ピアノレベル1に関しては初心者を含めていること、ピアノレベル10に関しては「他ソナタ・ロマン派作品」を一括りにして分析をしたために生じたと考えられる。より正確なピアノレベルの把握のために、ピアノレベル1および10の内容を細分化していく必要性について今後検討していかなければならない。

次に、ピアノ教本のレベルと乳幼児教育で弾き歌いを行う様々な歌唱曲のピアノレベルの照合について、

ピアノに関する授業関係者2名(うち1名は筆頭著者、もう1名は共著者)の合議の下、「乳幼児の様々な歌唱曲を1人で練習し、弾き歌いを行うことができるピアノレベル」をピアノレベル8以上に設定した。その結果、入学時に5名(全体の7.0%)であったのが卒業時には21名となっており、全体の29.6%の学生が幼稚園教諭や保育士として、新規の歌唱曲に出会っても対応することができるピアノレベルに達していることが分かった。また、残りの7割の学生は初級者群(ピアノレベル4)以上のピアノ演奏力を有しているため、新規の歌唱曲に取り組む基礎は身に付けてはいるが、さらなる向上が必要となる層を意味する。ピアノ演奏力の向上には練習が必要であると同時に、それを継続していることが重要であるため、ある程度の時間が必要になることが予測される。また、これには修業年限となる養成期間と授業回数が大きな影響を与えられらる。

#### 4. 総合考察

研究Ⅰにおいて、今回の調査対象となった2年制短期大学と4年制大学の比較の結果、2年制短期大学の方が4年制大学よりもピアノ演奏力の向上に力点を置いている教育課程であることが明らかとなった。また、その中で、3年制短期大学のモデルとしたA短期大学は2年制短期大学に近い音楽教育を実施していることも明らかとなった。しかし、音楽教育に関連する科目の必修・選択の別、手厚い音楽教育を実施する教育理念(G大学)などにより、学生に提供される音楽教育の内容にある程度の幅が生じることも示唆された。今後は、他の地域に所属する保育者養成校の音楽教育に関連する教育課程を比較検討していく必要があると考える。

研究Ⅱでは、3年制短期大学であるA短期大学に焦点を当て、音楽教育の成果の実態を調査した。その際、学生のピアノ演奏力を客観的に把握するピアノレベルを設定し、入学時と卒業時の比較を通して、ピアノ演奏力の向上を明らかにすることができた。一方で、これらの結果を、2年制短期大学あるいは4年制大学の学生と調査比較するまでには至っていない。他養成校の養成期間と授業回数、ピアノレベルの比較から、今回得られたピアノレベルの調査結果の数値が高いのか、あるいは低いのかの検証は、今後の課題としていきたい。

最後に、本論は数ある音楽教育の中でもピアノ演奏

に限定し、そのピアノレベルに着目して論を展開してきた。言うまでもなく、ピアノを通した音楽教育において、ピアノ演奏力の向上は必須事項であると考えている。一方で、保育者養成校は保育者を養成するのであって、ピアノ演奏家を養成するわけではない。保育者としての音楽教育の力量は、先行研究<sup>9)</sup>が指摘する通り、機械的で運動としての技術の熟達のみ偏ったピアノ指導ではなく、歌う、演奏する、指導する、合図を送るなど、様々な事柄を同時に行う保育現場独自の複合的な作業であると言える。そのため、保育者は絶えず練習を積む必要があり、それを経て初めて、子どもとともに音楽を楽しむことができると考える。学生が継続的にピアノ演奏力の向上に取り組むことを今後の目標とし、ピアノの練習に対する意欲を高める指導法についても検討していきたい。

#### 5. 注

- 注1) 本論では、「対象となる子どもたちに音楽教育を施すことができる一定の力のことで、具体的にはピアノの弾き歌い、楽器演奏等を行うことができる力」と想定している。
- 注2) 「音楽理論」は音楽の基礎的な知識を身に付け、読譜力を高めるものである。「ソルフェージュ」は譜を読み、読み取ったものをリズムや音程に合わせて表現するものであり、「合奏」は、楽器でメロディーを表現する楽しさを味わうとともに、譜を読みリズムやハーモニーに合わせて表現する力を高め、ピアノ演奏力の向上に寄与すると考えられる。
- 注3) インターネット上で情報公開されている大学の情報を元に作成した。なお、直近にカリキュラムを変更している大学については、旧カリキュラムとの対応を検討するなど可能な限りシラバスを参照した。

#### 6. 文 献

- 1) 文部科学省：幼稚園教員の免許資格を取得することのできる大学、[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kyoin/daigaku/detail/1287039.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/daigaku/detail/1287039.htm)
- 2) 厚生労働省：指定保育士養成施設一覧、[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/hoiku\\_youseikou.pdf](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/hoiku_youseikou.pdf)
- 3) 教育職員免許法第五条別表第一。
- 4) 小野由恵：保育者・教育者養成におけるピアノ学習の実態調査に基づく学習支援の課題、北海道文教大学論集13：83—96, 2012。
- 5) 三宅啓子、福西朋子：保育学生の音楽表現技能と幼児の音楽活動の連動性—保育実践力の向上を目指した音楽基礎技能「器楽法」授業実践から—、高田短期大学紀要30：95—106, 2012。
- 6) 加藤照恵、山本奈帆子：保育者養成としての音楽系科目のカリキュラムと授業内容に関する研究、山口芸術短期大学研究紀要45：11—22, 2013。



- 7) 林原隆治, 長崎あや子: 保育者養成校における音楽教育Ⅱ  
— 入学前の音楽経験が入学後のピアノ学習に及ぼす影  
響 —, 尚綱短期大学研究紀要38: 33-43, 2006.
- 8) 光本弥生, 澤津まり子, 安達保雄, 中川智之: 第8分科会  
保育所実習と実習指導 — 連携づくりと学生の育ち —, 平  
成25年度全国保育士養成セミナー・全国保育士養成協会  
第52回研究大会実施要項, 東京: 一般社団法人全国保育士  
養成協議会, pp. 111-119, 2013.
- 9) 長井典子: 保育者養成校における音楽表現についての一考  
察 — ピアノ指導を中心に —, 湊川短期大学紀要49: 7-  
15, 2013.

